甲斐市立竜王北小学校 学校関係者評価書

令和7年2月7日（金）

甲斐市立竜王北小学校 学校関係者評価委員会作成

第１回　学校関係者評価委員会
実施日：令和７年２月７日（金）午後１時～
会　場：竜王北小学校多目的室
参加者：（学校関係者評価委員：学校運営協議会委員）
奥石正寛 小宮山千雪 小川啓介 佐藤千登勢
（学校側）
校長：梶本宏 教頭：金丸徹 主幹教諭：望月利彦

Ⅰ 学校側から提案された内容
教職員自己評価及び児童・保護者アンケートの結果を中心に達成状況、改善策を示した。

Ⅱ 協議された主な内容

〇学校経営について

- **教職員の能力を最大限発揮できるように指導・助言の機会をもつように心掛けてきた。**
- **管理職による支援体制を重視し、教務職員や支援員の先生方のマネジメントをすることにより、職員のバックアップ体制がとれるように心掛けてきた。**

「学校経営方針や学校教育目標に基づいた教育活動を行っている」とした教職員の割合が高い。一方、「PDCA サイクルで教育活動が取り組まれている」については A 評価が 60%を下回っており、他の項目より低くなっていることから、その趣旨や目的を再確認していく必要がある。

〇学校運営について

- **教育予算が限られている中で、選択と集中を図らなければならない状況である。無駄を一層切り詰めて教育活動の充実を図りたい。環境教育も同様である。**
- **保健につい保健室や養護教諭任せにせず、各職員が自覚をもって児童の健康について責任を持つよう呼びかけてきた。児童だけでの来室数も減り、真に必要とされる児童の来室が増えてきた。**
- **避難訓練の充実等で、児童だけではなく職員の危機管理意識を高めてきた。今後、避難訓練の実施方法もさらに工夫を加えていきたい。**

適切な情報管理の下で、報告・連絡・相談等の情報共有がなされ、共通理解をもって協働体制の中で教育活動が展開されている。危機管理マニュアルの理解については、引き続き危機管理に関する共通理解や危機対応実践力の向上について取り組む必要がある。

〇学習指導について

- **校内研究や教職員評価、授業観察、面談の機会を利用して学習指導の更なる向上に向けた研修の機会を大切にしてきた。**

校内研究においては「学習者主体」の新たな学びについて研究を進めた。教職員の意識も非常に高く、前向き

に研究を進めることができた。また、質の高い教育を目指し、確かな学力を育成することに一定の成果を見出していることがうかがえる。しかし、一部児童が学校の授業が楽しくない、授業が分からないとしていることを受け止め、今後も「わかる授業、楽しい授業」づくりに向け、教師の授業力向上や、きめ細かな指導体制の充実を図る中で、学校全体として学習指導の力を高めていく必要がある。

○生徒指導について

- **ケース会議を開催し、気になる児童や不登校傾向にある児童について早期対応をめざした。市の子育て支援課や児童相談所、医療機関へつながったケースもあった。**
- **普段から生徒指導を大切にし、校内、校外の安全課題に対して全校やクラス単位で取り組んだ。自転車のヘルメット着用、廊下の安全な歩行、道路での遊びの禁止、河川での安全などを呼びかけた。**

教師が児童一人一人を見つめて丁寧に対応し、学級集団づくりに取り組んできた。また、昨年度低い傾向にあった「特別支援教育」については、支援級在籍の児童以外にも関わり方に注意を要する児童が増加していることから、全職員での共通した児童理解を推し進めてきた。今回の調査ではその結果が顕著に表れていることを確認し、継続して丁寧な児童理解を実践していく必要がある。

○地域との連携

- **地域人材について、「昔遊び集会」や「町探検」「信玄堤のレクチャー」「盲導犬のお話し」等、各学年での活用が進んでいる。**
- **教育課程にしっかりと位置づけた分掌づくり、リストアップ化するなど組織的な体制でいかしていくことが大切である。**

地域人材や外部指導者を招いての学習機会は昨年度よりも増えた。今後も引き続き地域との連携・協働について検討していく。また学校ホームページや各種おたより等を活用した情報発信に努めてきた。今後も分かりやすい情報発信に努めていきたい。

○学校の特色に関して

- **「広場の時間」の有効的な活用が図れている。音楽的な行事や体育的な行事を組み入れる中で、短い時間で最大限の教育効果が見られる内容となってきている。**

「広場の時間」については、」学校全体の多忙化、行事精選の背景もあるが、音楽発表会に変える形で実施した「音楽広場」や子ども達の運動能力の向上をめざして取り組んだ「大縄大会」等、時間的には短時間であっても大きな成果が見られる活動となり得ているため、今後も継続実施する。

○創甲斐教育について

- **下駄箱の靴やトイレのスリッパをそろえる取組については、児童会や委員会とも連携して取り組んだ。一定の成果は見られるものの、継続した呼び掛けが必要。**

学習指導要領の適切な実施を通して学校教育目標の実現を図ることで、創甲斐教育が掲げる「国語力」「自己表現力」「体力」の向上に迫っていく。

＜学校関係者評価書＞

Ⅰ　全体評価

「教職員自己評価」及び「児童・保護者アンケート」からも全体的に肯定的に捉えられていることはとても良い。今後も肯定的評価が向上している項目について、教職員が自信をもって教育活動に取り組んでほしい。肯定的な回答率が高い項目については更なる向上を目指すとともに、肯定的な回答率が低い項目については、その理由や実態を明らかにし、改善を図る必要がある。

Ⅱ 特 徴

＜学校教育目標・学校経営について＞

〇教職員自己評価の結果から、学校経営方針に基づき、個々の教職員がしっかりとした問題意識を持ち、全体で課題を明確化し取り組んだことがわかる。いじめや不登校など、児童一人ひとりの課題に応じた対応に努めることができている。

〇「令和の日本型教育」が叫ばれる中で、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実をめざし、今後も端末の活用や「新たな学び方」について研究を深めてほしい。

＜学校運営について＞

〇コロナ禍以前の活動に戻りつつある学校行事を実施する中で、子ども達の成長につながる取り組みができている。

〇「危機管理マニュアルを理解している」のA評価の値が低いことが懸念される。危機管理については「A評価」が 100%であるべきと考えるため、さらに充実した対応を求める。

〇「人事評価」の活用を上手に取り入れる中で、教職員の資質能力の向上と組織の活性化を図っていく必要がある。

〇若手教職員が増加する中で今後も「報告・連絡・相談・確認」を徹底した教育活動の実践を行ってもらいたい。

＜学習指導について＞

〇学校教育の中心は学習指導である。ICT機器等、従来の一斉指導とは違った方法や環境の中で、子どもたちは深く学んで育っている。児童は表情豊かに楽しく学んでおり、みんなで考え、みんなの考えを共有し、学びを深めている様子がうかがえた。

〇ICT機器の活用について、児童が楽しみながらスキルを獲得できるよう引き続き指導していってほしい。

〇学習についての項目でC、D評価をつけた児童や学習の定着に不安を感じている保護者がいることから、引き続き教師の授業力向上やきめ細かな指導体制の充実を図っていく必要がある。

＜生徒指導について＞

〇課題を抱えた児童について、全教職員で共通理解をし、同じ歩調で対応していってほしい。

〇今後も児童とのコミュニケーションを深めながら信頼関係を築く中で、問題行動の未然防止や早期発見、早期対応を図っていくことが大切。

＜地域との連携について＞

〇地域人材の有効的な活用が難しくなっている。共働き世帯の増加も相まって学校から協力を呼びかけてもそれに対応し切れていない。人材のリストアップ化を図るなど方法の工夫が必要である。

〇学校運営協議会として、広く声掛けを行うなど地域の方々との繋がりをより太いものとすることが求められる。

〇保護者の中にもいろいろな技術、資格を持っている人がいるため、保護者を有効に活用することで子ども達の学習がより深いものとなるであろう。

〇様々な活動を通して、地域教材や地域人材を教育資源として取り入れ、地域の教育力をいかしていってほしい。

＜学校の特色について＞

〇学校の特色ある教育活動として「広場の時間の活用」「モジュール学習」等を引き続き有効活用していってほしい。

＜創甲斐教育について＞

〇創甲斐教育の目指すところと、学校教育目標の目指すところは一致しているので、今後も、児童の健全育成に向けて、教育活動の推進をお願いしたい。

Ⅲ　今後の課題として意識されたいこと

〇PDCAサイクルを通した教育実践と評価の具現化。

〇危機管理マニュアルの工夫と安心・安全な学校づくりの推進。

〇ICT機器の積極的な利用と、一人一人が活躍し、自己肯定感の高まる授業づくり、「わかる授業、楽しい授業」づくりの推進。

〇教職員の共通理解のもとで、歩調を合わせた特別支援教育や生徒指導の充実。

〇いじめ等の早期発見と対応等、自己評価で課題のあった項目について、教職員の資質向上と意識改革の推進。

〇地域人材の活用と学校運営協議会との結びつきをより強固なものへと進めていく。

※特記事項　特になし

記載責任者　竜王北小学校学校運営協議会会長　奥石　正寛　奥石